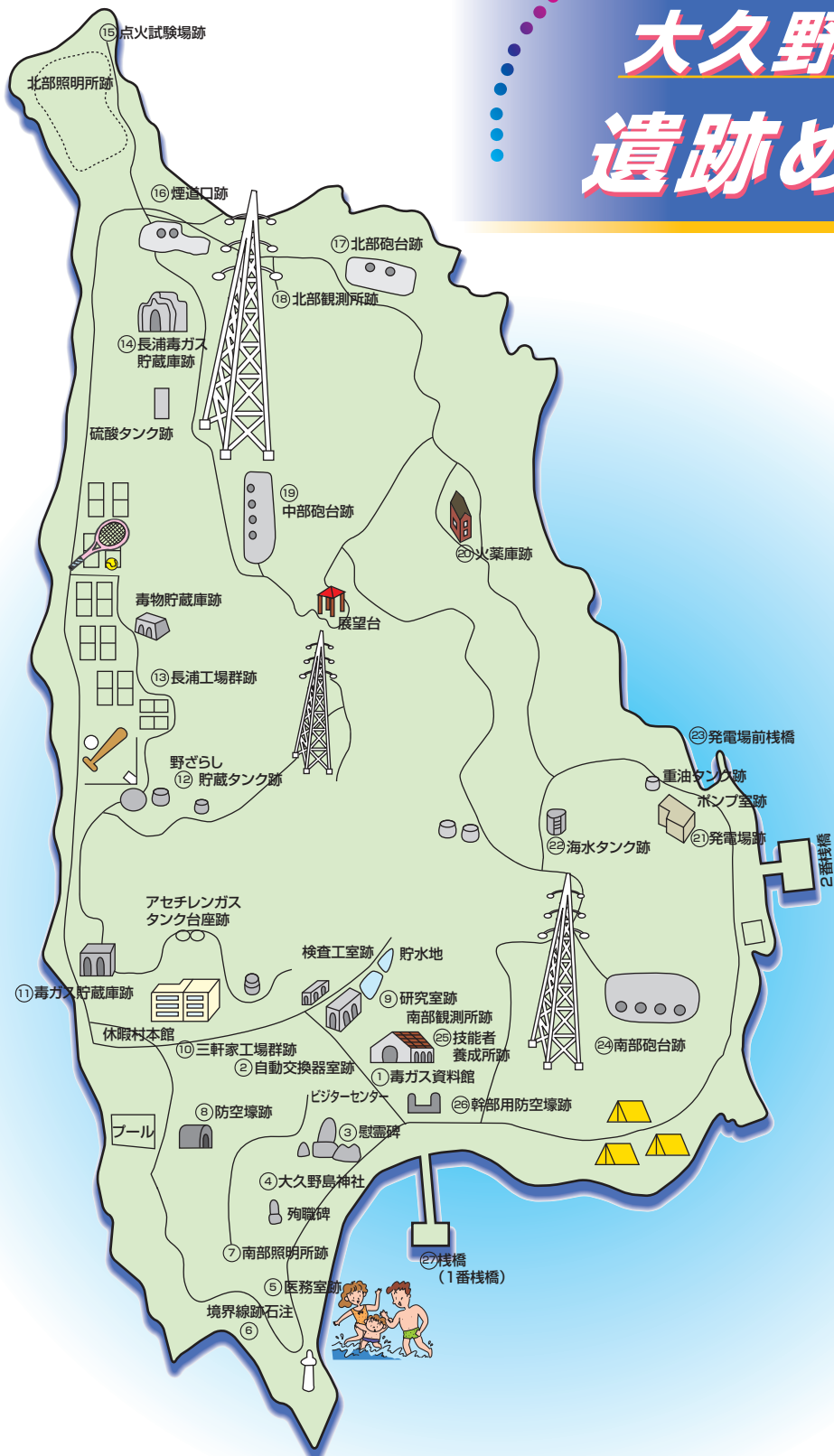


大久野島 遺跡めぐり





①毒ガス資料館

大久野島では、1929年から終戦まで陸軍の毒ガス工場が設置され、毒ガスを製造していました。1932年頃からは秘密の島として、地図からも消されていました。毒ガス製造による被害や戦争の実態を多くの人に知っていただき、悲惨な歴史を繰り返さないよう、毒ガスに関する資料を展示しています。(1988年完成)



②自動交換器室跡(通信壕跡)

ここには非常の場合に備え、電話の自動交換器が置かれていました。中は6畳くらいの広さで、普段は人がいませんでした。敵の空襲に備え、迷彩を施した頑丈な壕でした。壕の上に色を塗っているのではなく、色が入ったコンクリートが塗り込んであるので、黄色や緑色がそのまま残っています。



③大久野島毒ガス障害死没者慰霊碑

危険で苛酷な毒ガス生産、あるいは戦後の毒ガス処理に従事して傷害を受け、療養の甲斐なく亡くなった人々の名簿が納められています。(1985年建立)

毎年10月に慰霊式があり、悲惨な毒ガスの被害を繰り返さないよう誓っています。慰霊碑の横には、亡くなられた毒ガス障害者の思いが刻まれた宣言もあります。



④大久野島神社 神社前の広場 殉職碑

現在の休暇村宿舎近くにあった神社を毒ガス工場開所(1929年)の際、従業員たちが社殿を修復して「大久野島神社」とし、現在の場所に移転しました。境内では様々な行事(紀元節、天長節など)や式(入学式・卒業式など)が行われました。1937年には、境内に毒ガス生産による犠牲者の殉職碑が建てられました。中央の写真は卒業式の様子です。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。



⑤医務室跡

当初は診療所程度でしたが、1937年頃から入院病棟も建てられ、本格的な病院となりました。病院には歯科、内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科が置かれ、レントゲン室、毒ガス治療室、病室（30ベッド）などがありました。現在は海水浴場前の広場になっており、当時、使用された水道栓が残っています。



⑥陸軍の石柱と境界線

この島が軍用地になってからは、島の灯台と毒ガス工場の敷地とは厳重な垣根（有刺鉄線）で隔てられていました。現在でも、「陸軍所轄地」「大久野島燈標所属地」と書かれた石柱と、境界の垣根として使われたコンクリート柱や有刺鉄線が、灯台に向かって上がる石段のところに残っています。



⑦南部照明所跡

芸予要塞時代（1904年頃）、夜間、海を通る船を監視するために、探照灯（サーチライト）が置かれていた場所です。探照灯で海面を照らし、夜間の敵艦探知を行う場所でした。現在は、電灯井の部分と下の部屋が残っています。



⑧防空壕跡

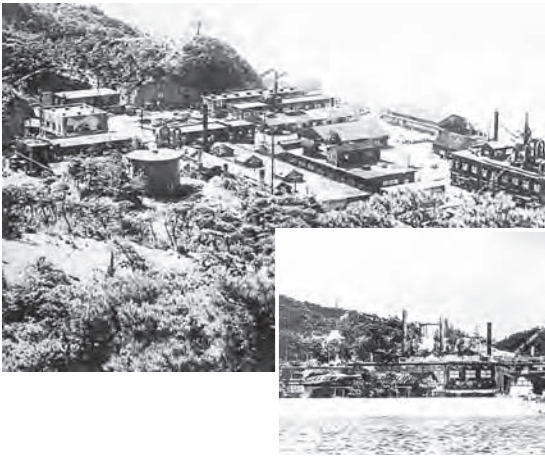
戦時中、防空壕が島内に約50箇所掘られていました。防空壕は、毒ガスや毒ガス製造に関わる物資を置く場所として作られました。現在でも、防空壕の入り口をあちこちに見ることができます。写真のような石積のあるところが防空壕の入り口です。防空壕の中は、長いもので100m位の穴が掘ってあり、内部でつながっているそうです。



⑨研究室・検査工室

白い建物が研究室です。ここは、毒ガスの研究開発を行う建物でした。毒ガス研究に必要な資料や標本・薬品なども置かれていました。隣の灰色の棟が検査工室でした。この建物では、毒ガスの効力を試す検査などが行われていました。古い写真には、当時のこの2つの建物が写っています。

※危険防止のために設置されている手すり（柵）内への立ち入りは出来ません。



⑩三軒家工場群跡

ここは毒ガス製造の中心となる工場地帯で、びらん性ガス（イペリット・ルイサイト）、くしゃみ性ガス、青酸ガスなどの製造工場や毒ガスを充填する工室、汽缶場、修理工場などの建物が建ち並んでいました。戦後、工場は解体され、現在は広場になっています。古い写真に見られる高い煙突のようなものは、煙を出すのではなく、有毒なガスを排気するためのものでした。

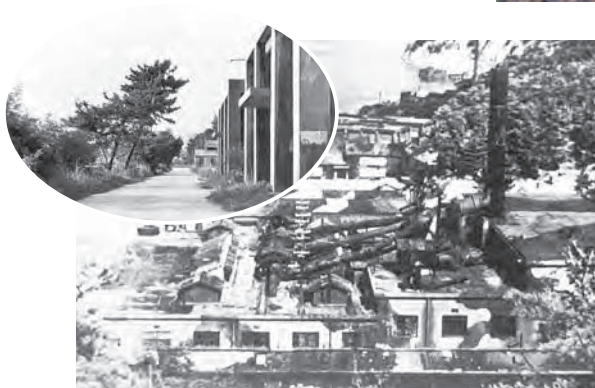


⑪毒ガス貯蔵庫跡（休暇村本館西側）

猛毒で皮膚がただれるびらん性毒ガス、イペリットがここに貯蔵されていました。2つの部屋それぞれに、10トン入るタンクがコンクリートの台座に置かれていました。すぐ前にあったイペリットの工場から、管を使ってこのタンクに毒ガスが送り込まれていました。イペリットやルイサイトなどの液体毒ガスは、内部に鉛を貼った鉄製のタンクに入れていました。

⑫野ざらし貯蔵タンク跡

イペリットなどの毒ガスが貯蔵されていました。毒ガスタンクを置いていた台座が32個もあり、たくさんの毒ガスが貯蔵されていました。現在、周りは森林になっていますが、当時は少し高い平地でした。この貯蔵庫は、コンクリートの部屋ではなく木造の建物で、簡単な屋根がついていました。



⑬長浦工場群

この地域は長浦地域といい、毒ガス工場ができるまでは田畑が耕作されていました。ここには硫酸タンクや催涙ガス製造工室、真空蒸留工室などの毒ガス製造工場と製品倉庫が立ち並んでいました。右の建物はドイツ式イペリット製造工室、左上は発煙筒工室です。現在は、運動広場やテニスコートになっています。

※危険防止のために設置されている手すり（柵）内への立ち入りは出来ません。



⑭長浦毒ガス貯蔵庫跡

島内で一番大きい貯蔵庫で、今も巨大な貯蔵タンク跡とコンクリートの台座が残っています。ここには約100トン入るタンクが6基置かれていました。戦後処理の際、毒性を取り除くために火炎放射器で焼き払って、黒くただれた壁面が今でもその凄惨さを物語っています。戦後、ここに残っていた毒ガスは土佐沖の太平洋に海洋投棄されました。



⑮点火試験場跡

北部海岸の岩場は毒ガスの点火試験場になっていました。左は戦後、発煙筒などを焼却処理している写真です。北部海岸道路脇に廃棄物焼却場があり、煙突を上に延ばして燃えやすくしていました。右はその焼却場の煙道口です。山の上に煙の出口があります。

⑯煙道口跡



⑰北部砲台跡

大久野島が軍事的にクローズアップされたのは、日露戦争前の1902年に芸予要塞が設置され、大久野島に砲台が設置された時からでした。北部砲台には8門の大砲が設置されていました。毒ガス工場時代には写真のような大きな毒ガスタンクが8個置かれていました。置かれていた毒ガスは砒素を原料とするルイサイトでしたが、戦後処理の際にタンクを焼却処分したため、1996年に砒素汚染が発覚し、1999年に土壌を洗浄処理しました。



⑱北部砲台観測所跡

この観測所は敵艦・敵上陸部隊の位置をとらえ、砲撃に必要な計算（火砲を向ける方向、砲身に与える角度・発射の時期等の計算）を行い、その結果を砲台に伝える役割を担っていました。観測所から砲台への伝達手段は伝声管を使用したり、徒歩で伝えました。毒ガス工場時代にはここに高射砲が置かれ敵機に備えていたそうですが、敵に場所を知らせることになるので発射されなかったそうです。



⑲中部砲台跡

中部砲台には芸予要塞時代に6門の28cm榴弾砲が置かれていました。日露戦争の時、6門のうち2門が朝鮮半島に運ばれ、旅順攻撃に使われました。兵士たちの仮眠できる兵舎もありました。この兵舎は毒ガス製造期には毒ガス製品、並びに原料置き場などに使われました。現在も砲座跡と兵舎の建物が残っています。

※危険防止のために設置されている手すり(柵)内への立ち入りは出来ません。

②0 火薬庫跡

この火薬庫は芸予要塞時代の砲台の弾薬や火薬を保管する火薬庫でした。壁はレンガ造りですが、屋根は火薬が爆発した時、爆風が抜けるように簡単に造られていました。毒ガス工場時代には毒ガスの製品置き場として利用されました。また朝鮮戦争の時、連合軍（米軍）が火薬庫として使用し、「MAG1」の文字はその時に書かれたものです。火薬庫の海側の土手は、海上や対岸から火薬庫が見えないように盛り土をしていました。



②1 発電場跡

毒ガス工場の電力を賄った発電場です。ディーゼル発電機を重油で動かし発電しました。当初は240V発電機が3台でしたが、1933年に3台、1934年には2台を増設しました。さらに、1941年には忠海から22KVの海底ケーブル2本によって受電し、既設の発電設備と併用して電力を賄いました。敗戦前には、この建物の中で女子動員学徒による風船爆弾の気球部分の満球テストも行われました。



②2 重油タンク・海水タンク跡

発電場跡の横にある円筒のコンクリート建造物が重油タンクです。ディーゼル発電機を動かす重油が貯蔵されていました。発電場跡の裏側を少し上がった場所に海水タンクが残っています。これは、発電場で使用する海水を貯めていました。地下水があまり豊富でなかった大久野島では、毒ガス工場の冷却水や風呂の湯などの生活用水として海水が使用されていたため、海水タンクは島内数カ所に残っています。



海水タンク跡



重油タンク跡



②3 発電場前棧橋

明治時代（芸予要塞時代）に石で作られた固定の棧橋です。古い写真は1929年の毒ガス工場開所祝の時のものです。知事をはじめ軍関係者などが招待され、この棧橋から上陸しました。毒ガス工場時代は秘密厳守のため、忠海町に面したこの棧橋はあまり使用されませんでした。

※危険防止のために設置されている手すり（柵）内への立ち入りは出来ません。



②④南部砲台跡

この砲台は、明治の芸予要塞時代に前の海路を通る敵艦隊を攻撃するために造られました。現在残っている南部砲台の台座跡には、スカ9速加砲4門が設置されていました。道路を挟んで左側のところの砲台には、24cm加農砲4門が設置されていました。芸予要塞時代に兵舎として使用され、毒ガス工場時代は毒ガス貯蔵倉庫として利用されていました。下の写真は当時、忠海町の冠崎に置かれていた同じ型の24cm加農砲です。

②⑤技能者養成所跡

写真は芸予要塞時代の兵舎で、毒ガス工場時代は毒ガス製品倉庫として使われていた建物があった場所のものです。技能者養成の教室、職員室などはこの毒ガス製品倉庫の上に建てられていました。当時、高等小学校の卒業生を技能者養成工として採用し、3年間の専門教育後、各工場で働かせていました。現在は埋め立てられ、建物は地下に埋まっていますが、建物の一部は見るができます。



幹部用防空壕入口



工員用防空壕跡

②⑥幹部用防空壕跡 工員用防空壕跡

幹部用防空壕（1番棧橋前の広場横）はコンクリートできていて、上に土を盛り石垣をめぐらし、非常に強固に造られていました。一方、工員用防空壕（「研究室跡」左山の上の斜面）は地面に穴を掘った（1m程の深さで人が1人入るくらいの大きさ：通称たこつぼ）だけのものでした。幹部がいかに優遇されていたかがうかがえます。



②⑦第一棧橋

毒ガス工場で働く作業員がこの棧橋から入ってきました。当時は、この島には陸軍大臣の許可のない者は、絶対に島に上陸することはできませんでした。また、従業員が帰る時には棧橋近くの広場に整列し、持ち物検査を受けなければなりませんでした。

※危険防止のために設置されている手すり（柵）内への立ち入りは出来ません。

●毒ガス製造当時の大久野島

1944年頃



大久野島遺跡めぐり

発行日 2001年6月初版
 2003年3月改訂版
 2008年4月改訂版
 2014年3月改訂版
 発行所 大久野島活性化協議会
 編集者 毒ガス島歴史研究所
 おおくのしま戦争遺跡の保存を進める会